

# ヒロシマ ユネスコ

戦争は人の心の中に生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。……政府の政治的及び経済的取極（とりきめ）のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われぬためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。  
(ユネスコ憲章前文より抜粋)

## 原爆ドーム周辺問題

### 景観保護に更なる監視を

世界遺産登録十周年の〇六年に端を発した原爆ドーム景観問題は、震源である建造物の規模縮小には至らず、その巨体の出現を許す結果となり、景観保護に禍根を残すことになりました。この間のこれらの動きは前号において報告したとおりです。この中で、広島ユネスコ協会は、広島市に対して、今年二月美観形成条例の早期施行などを含む要望書を提出したことは詳



世界遺産・原爆ドームと周辺の景観

しく紹介しましたが、三月、この要望書に対する文書回答がありました。概要はつぎのとおりです。(当協会▽、広島市▽) ▲既存の高層建築物(平和の門含む)建設の経緯と見解▽

保護への配慮▽  
▼基本理念は、都心部における緑豊かな空間づくり、原爆ドーム周辺の雰囲気と都市的な賑わいととのバランスがとれた空間づくり。市民球場跡地事業計画案応募要項で景観に関する条件として「現球場が慰霊碑から見た原爆ドームの背景となる場所、対象区域の一部が緩衝地帯に含まれる」一点に配慮することを掲げている。

▼平和大通り電車道建設計画。  
▼緩衝地帯における平和大通りの役割を認識し、慎重に検討。  
▼今後、現状変更を伴う建築・建設に対する厳正対処を。

▲景観保護に関する開発関係企業・団体の意識啓発▽  
▼意識啓発に努める。  
× × ×  
次なる景観を巡る焦点は、広島市民球場の跡地利用が浮上してきました。その跡地に造られるモノについて広島市はプランの絞りこみを進めています。最終決定にあたって経済界をはじめ都心部の高密度機能の装置化を求める声もあり、今後、原爆ドームの景観保護との関係で問題の浮上も予測されます。

▼要綱に基づき適正に対応。  
(※緩衝地帯に関わる言及なし)  
▲改正美観形成要綱関連▽

今後の課題は、原爆ドーム周辺および緩衝地帯の観察と法的規制を盛りこんだ拘束力の強い条例の早期制定を求め、そして、球場跡地利用計画の行方を見守っていくことが世界遺産保護に欠かせない取り組みです。

▼規制対象地区の高さ設定の再検討(ドームの高さ考慮)。  
▼条例による規制など法的拘束力のある制度導入を景観審議会の議論を踏まえ検討する。

▼新たな景観阻害建物の防止。  
▲景観に関わる関係部局(平和、文化財保護、都市デザイン)の連携強化▽

▼連携をさらに強化。遺産保護の分掌事務は、平和推進担当。この担当が関係部局、関係団体と連絡調整を行っている。

▲市民球場等の跡地利用・景観

▼市民球場等の跡地利用・景観

(常任理事・亀井 章)



二〇〇七年度総会が五月

二十六日開かれ、前年度事業報告、新年度事業計画（一部新年度予算案審議は六月十三日の理事会に委任された）などについて提案、承認されました。

議事は前年度事業に関し、原爆ドームの景観問題に対する活動に多くの時間とエネルギーが注がれたことが報告されました。

また、青少年対象事業の活性化、ユネスコ活動奨励賞の基準再検討、世界寺子屋運動募金活動の実施、ユネスコサロンの出

前講座の進展、大邱ユネスコ協会との提携事業での訪問団の初のホームステイ受け入れ、他団体事業への参画、機関紙の六ページ立て三回の発行など各部会の活動が活発に展開されたこととの報告がありました。

また、新年度については、青少年活動の復活、世界遺産景観の保護、世界寺子屋運動の啓発運動、平和の文化の活動を重点方針とする部会別活動計画が承認されました。新規事業として、「杉並ユネスコ協会青年部の広島ツアー十周年記念のつどい」、その他各部会の事業見直しなどがあります。

組織関係では、組織部会に含まれていた青少年育成担当を部会として独立させました。

### 会長挨拶

広島ユネスコ協会会長  
北川 建次



このたびまた会長就任の栄をいただくことになりました。5期目というので、少し長すぎる感もありますが、会員の皆様のために、何か奉仕できればと思っております。広島ユネスコ協会は歴史的にも古く、また現在も日本全国からその活動ぶりが注目されています。これも会員皆様の献身的な奉仕活動の賜物とありがたく思っております。

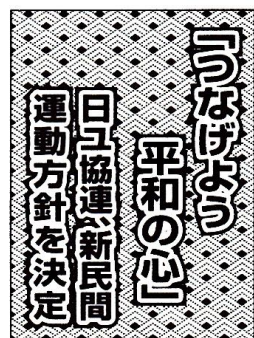
今日、世界や日本を取りまく諸情勢はあまり望ましい方向に向っているとは思われません。時、あたかも民間ユネスコ運動60周年の記念年に当り、ユネスコの精神が今ほど問われることはありません。

広島ユネスコ活動はこれからも国の内外から注目され、期待されております。皆々様の御支援を何卒よろしくお願いいたします。

### 二〇〇七年度役員

名誉会長 秋葉忠利 〇名誉顧問 平岡敬 〇顧問 永井滋郎 伊東亮三、深崎敏之 〇会長 北川建次 〇副会長 木村進匡 〇組織部会 青少年育成部会担当、高橋昭博 〇平和・世界遺産部会担当、光田鈔 〇教育部会担当、竹沢臣子 〇文化部会・広報部会担当、\*中山修一 〇国際部会担当 〇理事 〇組織部会 〇常任理事 〇末重文男、平岡豊恵、藤井孝行 〇理事 〇山崎芳彦、大本文子、\*井上哲一 〇青少年育成部会 〇常任理事 〇國田繁、松岡盛人、清水昌法、梶井朝子 〇理事 \*今村信昭、森田清美 〇教育部会 〇常任理事 〇崎岡光明、太鼓矢晋、足立柳子、小西清彦、藤原隆範 〇理事 〇大和喜久男 〇文化部会 〇常任理事 〇井尾義信、新川貞之、松原博子、佐々木肇 〇理事 〇中道紘二、\*谷秀明 〇国際部会 〇常任理事 〇藤井正一、永田龍男、柴田幸子 〇理事 〇松尾昭彦、中谷美保子、\*高橋博暢、平井勇 〇平和・世界遺産部会 〇常任理事 〇亀井章、由田千鶴子、\*宇野豪 〇理事 〇西村憲治 〇広報部会 〇常任理事 〇古田碩永、岡平裕次、森木学 〇事務局 〇事務局長 〇山本隆信 〇事務局次長 〇藤井孝行 〇兼、國田繁 〇兼 〇常任理事 〇亀井章、上橋穂留

新畑志津夫 〇理事 〇平井勇 〇監事 〇木原亮、\*黒瀬真一郎 〇注 〇印は部会長、\*印は新任



日本ユネスコ協会連盟では、民間ユネスコ運動発祥六十周年を迎えて、新しい民間ユネスコ運動方針を定めました。今後の各地区ユネスコ協会の運動指針となるものと考えられます。ここでは、概略をご紹介します。

### 〇民間ユネスコ運動発祥 六十周年を迎えて

戦争のない二十一世紀の地球社会実現への願いは、同時多発テロ、アフガン軍事攻撃、イラク戦争等々により打ち砕かれ、世界はいっそう不安定になっています。また、貧困、環境、人権、文化摩擦など地球社会が解決すべき課題もたくさんあります。国内においても、いじめ、所得格差、核武装論、憲法改正論議などさまざまな問題が生まれています。

このような情勢変化を受け、私たちは、民間ユネスコ運動六十周年を機に、「すべての生命の尊重」を願い、共に生きる世界をめざして、「平和の心」をつなげていく活動を地域の中

### 〇ユネスコ憲章の理念

世界恒久平和を、一人ひとりの心の変革によって実現しようとするユネスコ憲章の理念は不変です。ユネスコは、文明間の対話を促進するために「平和の文化」を提唱し、地球存続への危機感を背景とした「持続可能な開発のための教育」を推進しています。私たちは、こうした新しい世界の動きを改めて学習し、身近かで新しい活動を展開していきます。

### 〇運動方針三つの柱

今回の運動方針では、ユネスコの理念である「平和の文化」の構築を大目標に、「平和の文化」実践活動、「世界寺子屋運動」、「世界遺産・地域遺産活動」を三大柱とします。

「平和の文化」という概念には、生命の尊重、人権の尊重、非暴力、民主主義、寛容や対話の重視、文化多様性の尊重、持続可能な開発、男女の共同参画などの幅広い意味を含んでいると考えます。

× × ×

私たちの活動は、国際平和と人類共通の福祉のために地域の中から「平和の文化」を築く実践を盛りあげていく運動です。それは一人ひとりの日々の取り組みにかかっています。

地球から世界へ、「つなげよう 平和の心」を！

# ひとしきも、心あらたに

## 8・15みんなで平和の鐘を

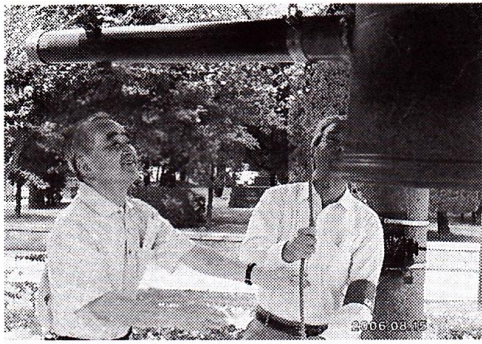
日本各地の約六十のユネスコ協会が八月十五日の終戦記念日を中心に「平和の鐘」を撞きます。

この「平和の鐘」は、二〇〇〇年の国連の「平和の文化国際年」事業の一環として、日本国内の民間ユネスコ協会が始めたもので、広島ユネスコ協会は、同年から毎年一斉行動に企画しています。今年もつぎのとおり実施することとしています。多数の参加をお願いいたします。

この「平和の鐘」は、二〇〇〇年の国連の「平和の文化国際年」事業の一環として、日本国内の民間ユネスコ協会が始めたもので、広島ユネスコ協会は、同年から毎年一斉行動に企画しています。今年もつぎのとおり実施することとしています。多数の参加をお願いいたします。

この「平和の鐘」は、二〇〇〇年の国連の「平和の文化国際年」事業の一環として、日本国内の民間ユネスコ協会が始めたもので、広島ユネスコ協会は、同年から毎年一斉行動に企画しています。今年もつぎのとおり実施することとしています。多数の参加をお願いいたします。

この「平和の鐘」は、二〇〇〇年の国連の「平和の文化国際年」事業の一環として、日本国内の民間ユネスコ協会が始めたもので、広島ユネスコ協会は、同年から毎年一斉行動に企画しています。今年もつぎのとおり実施することとしています。多数の参加をお願いいたします。



条項に思いを巡らし、世界の核兵器廃絶と平和を祈ります。

〔日時〕二〇〇七年八月十五日

〔水〕午前十一時三十分集会 正午打鐘

〔場所〕平和記念公園内平和の鐘前広場

〔内容〕主催者あいさつ、韓国・大邱ユネスコ協会との交換メッセージ披露、鐘撞き。パンフレットおよびうちわ配布。

### 現地講座「石見銀山遺跡」探訪記

世界遺産登録が目前に迫った石見銀山遺跡への旅は、広島ユネスコ協会・現地講座として懸案のテーマでしたが、四月十五日、ついに決行となりました。参加者二十四人、早朝、マイクロボスで広島を出発し一路石見の国、大森を目指しました。現地では私たちを出迎えてくれたのは、石見銀山ガイドの会長西本俊司さん。西本さんの案内でまず現在公開中の龍源寺間歩を見学しました。龍源寺間歩は江戸時代に開発され

世界遺産登録が目前に迫った石見銀山遺跡への旅は、広島ユネスコ協会・現地講座として懸案のテーマでしたが、四月十五日、ついに決行となりました。参加者二十四人、早朝、マイクロボスで広島を出発し一路石見の国、大森を目指しました。現地では私たちを出迎えてくれたのは、石見銀山ガイドの会長西本俊司さん。西本さんの案内でまず現在公開中の龍源寺間歩を見学しました。龍源寺間歩は江戸時代に開発され

〔参加者〕市民、高校生ユネスコ関係者、広島ユネスコ協会会員

宮島ユネスコ協会は、「平和の鐘」事業初の取組みとして、「民間ユネスコ運動の日」(七月十九日)の一環として、七月十五日、「環境破壊を含む暴力を否定し、平和を創造する願いをこめて」(井口会長)宮島町の大聖院で、終日、町民の参加を得て大聖院の鐘を撞かれました。(写真)昨年「平和の鐘」(常任理事・亀井 章)

たもので、全長二百七十メートルの坑内には当時のままの状態です。ノミで掘った跡が残っており、暗く狭い坑道で銀を求めて命を削った鉱夫たちの想像を絶する過酷な労働に想いを馳せました。

龍源寺間歩から新緑鮮やかな樹間の小道を抜けて、途中清水谷精錬所跡へ。発掘され目の目をみたばかりの精錬所跡は山の急斜面に大きく見事な石組みが残されていました。

ゆっくりとした坂道を下って、大森の町へ入りました。すでに重要伝統的建造物保存地区に指定されている町は、武家住宅や豪商、郷宿、町屋などが狭

い道に沿って混在しており、銀山経営の中枢として賑わった町並みがひっそりと佇んでいます。そんな大森の町で、世界遺産登録に私財を投じて情熱を傾ける地元の中村ブレイス社長中村俊郎さんにお会いできたのはラッキーでしたし、終始、懇切丁寧で分かり易い解説案内をしていただいたガイドの西本さんのお陰で石見銀山見学が実り多いものとなりました。



大森を後に大田の町へ。老舗の料亭「仁万屋」の大広間で昼食、小休止。

バスは、日本海を左に見ながら次の目的地、出雲市へ向かいました。

出雲市では今年三月に開館したばかりの島根県立古代出雲歴史博物館を訪ねました。博物館では開館記念特別展「神々の至宝」が開かれており、出雲大社にゆかりのある県内外の社寺の神宝千百点が一堂に公開されており、中でも伊勢神宮、熊野速玉大社、春日大社、八坂神社、宗像大社からの国宝などの至宝には目を見はりました。また、中央ロビーに据わる出雲大社境内で出土した巨大心柱や荒神谷遺跡の三百五十八本の銅剣、加茂岩倉遺跡の三十九個の銅鐸が並ぶ一角は圧巻でした。

出雲市では今年三月に開館したばかりの島根県立古代出雲歴史博物館を訪ねました。博物館では開館記念特別展「神々の至宝」が開かれており、出雲大社にゆかりのある県内外の社寺の神宝千百点が一堂に公開されており、中でも伊勢神宮、熊野速玉大社、春日大社、宗像大社からの国宝などの至宝には目を見はりました。また、中央ロビーに据わる出雲大社境内で出土した巨大心柱や荒神谷遺跡の三百五十八本の銅剣、加茂岩倉遺跡の三十九個の銅鐸が並ぶ一角は圧巻でした。

出雲市では今年三月に開館したばかりの島根県立古代出雲歴史博物館を訪ねました。博物館では開館記念特別展「神々の至宝」が開かれており、出雲大社にゆかりのある県内外の社寺の神宝千百点が一堂に公開されており、中でも伊勢神宮、熊野速玉大社、春日大社、宗像大社からの国宝などの至宝には目を見はりました。また、中央ロビーに据わる出雲大社境内で出土した巨大心柱や荒神谷遺跡の三百五十八本の銅剣、加茂岩倉遺跡の三十九個の銅鐸が並ぶ一角は圧巻でした。

天候に恵まれ、事故もなく話題の石見銀山遺跡や古代出雲歴史博物館を見学できて、有意義な現地講座になったのではないのでしょうか。

それにしても、石見銀山遺跡がこのあと世界遺産登録の延期勧告から一転し、逆転登録となったことは何よりもめでたく嬉しいニュースでした。

終わりに、この日一日、バスを快く提供していただいた上に、安全快適な運転をしてくださった中内祐秀さんに心よりお礼を申しあげます。(写真)遺跡内の説明板を見る参加者

終わりに、この日一日、バスを快く提供していただいた上に、安全快適な運転をしてくださった中内祐秀さんに心よりお礼を申しあげます。(写真)遺跡内の説明板を見る参加者

終わりに、この日一日、バスを快く提供していただいた上に、安全快適な運転をしてくださった中内祐秀さんに心よりお礼を申しあげます。(写真)遺跡内の説明板を見る参加者

(常任理事・井尾義信)

## 特別寄稿

## 戦後の民間ユネスコ運動

## 黎明期の広島ユネスコ運動を中心に

常任理事 宇野 豪

## はじめに

一九四七年、東北・仙台で世界にさきがけて「民間ユネスコ運動」が誕生してから、今年は六十周年という節目の年を迎えました。その間日本のユネスコ運動は、次第に国民の理解を深め、組織的にも、実質的にも、充実発展の道を歩んできたものと思われまふ。とはいえ、その六十年の歩みは、必ずしも平坦な道程ではありませんでした。それは、自由かつ自主的な民間運動としてのユネスコ運動の宿命かも知れません。

広島では戦後、ユネスコ憲章の精神に共鳴する人々によって一九四七年十二月準備会が作られ、その二年後の一九四九年十一月に、広島ユネスコ協会がスタートしました。この広島ユネスコ協会は、その後どのように活動を展開し、組織として発展していったのか。筆者は当時学生として、同志と共にユネスコ研究会を立ち上げ、活動の準備を始めながら、広島ユネ

第二回は森戸辰男氏の「国際平和とユネスコ」、長田新氏の「永久平和と教育」となっています。そこにはまさに広島のユネスコ運動の胎動が始まり、協会が結成の準備が進められている姿が窺われます。

## 広島ユネスコ協会の発足

仙台の協会発足に続いて京都、奈良、大阪そして東京へとユネスコ協会の設立が相次ぎ、一九四八年五月には日本ユネスコ協会連盟が結成された。広島では中国新聞の「社説」や論説などによるユネスコへの啓発がみられますが、協会の誕生は準備会発足から二年後

## ユネスコ運動の胎動

原爆により破壊され尽くした広島で、最初に平和運動を目指して発足したのは「日本文化平和協会」でした。中国新聞の記事によると、その発起人は文相森戸辰男氏、広島文理大学長長田新氏ほか主として広島在住の各界の文化人十一名で、一九四七年九月に協会が誕生。因に、会長には長田新氏、副会長には佐伯好郎氏（文博）が就任。

そして同協会は同年十一月から十二月にかけて中国新聞との共催で文化講座を開きました。その共催者にさらに「広島ユネスコ協会準備会」の名が加わっています。そして講座内容を見ると、第一回は文博・天野貞祐氏の「平和国家の理念」、

「ない」というユネスコ憲章の精神が若い人達の心を捉えたのです。先年発行された「広島大学の50年」の「年表」に「広島大学の学生が中心となって広島ユネスコ協会が発会」と記載されているのは、当時の学生たちを評価したものと思われまふ。

## 協会の発足とともに、学生

たちは「広島学生ユネスコ研究会」をスタートさせたが、十二月の協議会で「広島学生ユネスコ・クラブ」に改名し、しかも全国ユネスコ学生協議会に参加することを決定。その発会式は十二月十四日、広島図書館講堂で長田協会長や広島市長代理

ほか多くの来賓の出席をえて行われました。この当時参加していたのは、旧制文理大、高師、県立女専、女学院、新制広大的諸君でした。発足時の委員長は沖原豊（文理大）、筆者は総務を務めました。

意欲に燃える広島学生ユネスコ・クラブは年明けの二月早速第一回「学生ユネスコの集い」を開きました。長田協会長の講演「ユネスコ運動の本質と使命」、次いでレコード・コンサートをささみ、最後に「学生ユネスコ運動の在り方」をテーマにした討論。この討論に参加した学生は多くはなかったが、熱心な討論であったと記憶していま

## 第五回ユネスコ全国大会

一九五〇年のユネスコ全国大会を八月六日頃当地で開催したい、という広島市の要請が日ユ協連盟で承認され、三月一日その通達があり、協会、県・市社会教育課その他諸団体が結集して、大会開催の準備が進められることになりました。

そうしたなか、県民啓発のための「ユネスコ講演会」が六月二十三日、中央公民館で開かれました。講師は西村巖、伊藤日出登、森戸辰男の三氏でした。ところがこの講演会の二日後、突如かの朝鮮戦争が始まったのでした。

米ソの冷戦が背景にあったこの朝鮮戦争は、日本駐留の米軍の介入により烈しくなり、緊張感の漂う中で広島市の全国大会を迎えました。そして大会前日。

○連盟委員会・午前十時開会  
日本ユ連盟全国委員会が仁科委員長出席のもとに開かれ、長田広島協会長の挨拶のあと、大会決議案などを承認し、最後に次期大会を長崎で開くことを決定し、深夜十二時に解散。

## 学生ユネスコ・クラブ発足

戦後期広島市のユネスコ運動において学生の果たした役割は大きかった。「戦争は人間の心の中に生まれる……人間の心の中に平和の砦を築かなければなら

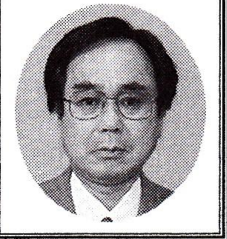
ない」というユネスコ憲章の精神が若い人達の心を捉えたのです。先年発行された「広島大学の50年」の「年表」に「広島大学の学生が中心となって広島ユネスコ協会が発会」と記載されているのは、当時の学生たちを評価したものと思われまふ。

協会の発足とともに、学生たちは「広島学生ユネスコ研究会」をスタートさせたが、十二月の協議会で「広島学生ユネスコ・クラブ」に改名し、しかも全国ユネスコ学生協議会に参加することを決定。その発会式は十二月十四日、広島図書館講堂で長田協会長や広島市長代理

(次号に続く)

# 青年部活動で得難い経験 若い人たちに語りかけたい

理事 今村信昭



皆様、「はじめまして」そして「ご無沙汰しております」。このたび、広島ユネスコ協会へ二十七年ぶりに再人会させて頂きました。よろしくお願い申し上げます。

私にとってユネスコ活動は学生時代の良き思い出であり、活動を通して学んだことや経験したことがその後の人生のいろいろな場面で規範を与えてくれたように思っています。

広島ユネスコ協会のHPを見ながら私とユネスコとのかかわりを振り返ってみたいと思います。ユネスコ活動を始めるきっかけは、一九七四年秋の第一回ユネスコ青年セミナーへの参加です。当時、私は工学部の学生でしたので、同世代で自分とは分野が異なる様々な方の意見がたいへん新鮮、ユニークに聞こえました。その後、古田碩永氏ほかのご指導のもと、松岡盛人氏を中心に青年部の設立に参加しました。特別な意識もなく軽い気持ちで参加したユネスコセミナーでしたが、そこに集う多

様な人々に惹かれてのいつの間にか活動に自らを投じていったと言うのが正直なところだと思います。私の青年部活動で最も印象に残っているもののひとつが、原爆講座の企画、開催です。

青年部を設立したものの具体的に何をどうしてゆくのか一向に定まらず、合宿をして活動計画を議論した際に提案したように記憶しています。提案の動機は、ユネスコ憲章前文「……心の中に平和の砦を築かねばなら

ない。」はたいへん心惹かれる文言ですが、「平和って何?」「平和の最も対局にある体験を継承せずして、その砦を築くことができるの?」という単純な疑問からでした。

原爆講座を企画するに当たっては、高橋昭博氏ほかに多大なご助言とご指導を頂きました。第一回原爆講座は一九七六年の開催ですが十人そこそこの若者の集まりにもかかわらず、高橋氏をはじめとした先生方には快く講義を引き受けて頂いたり、丁寧に私たちの疑問に答えて頂

きました。今、思い返せば、このことが不思議でありません。手元に当時の資料がありませんので詳細は明らかではありませんが、その後、ユネスコ青年部の原爆講座は第二回、第三回と続く定例の活動となり、一九七九年、広島青年団体が集まって「平和を語る青年の集い」の開催へと拡大、発展していきました。

そのほか、世界の児童画展を毎年開催したり、世界に送る児童画の募集事業を始めたりもしました。もうひとつ不思議なことには、こうした事業を青年部が企画するとすべからず協会ならびに関係機関から条件なしに積極的な支援、協力が得られたことです。児童画の募集事業を企画した際、協賛のお願いに絵の具メーカーの営業所へ飛び込みで伺ったことがありました。恐る恐る企画の趣旨説明など始めましたが、募集要項(案)のチラシを見るなり即断即決で協賛ならびに絵の具の提供を快諾して頂いたことがあります。時代が良かったのでしょうか。時代性

だけでなく、二十七年ぶりに広島へ舞い戻って暮らしてみようのですが、広島には独立独歩の気風と言いますか、都会の流

是非非を判断する気風があるように感じます。

私は広島ユネスコ協会青年部の様々な活動に参加して他では得難い経験をさせて頂き、充実した学生生活を送ることができて本当に良かったと今では思います。しかし、当時、工学部の学生がユネスコ活動に係わって就職できるのかとの不安を感じていたことも敢えて告白したいと思います。

お陰様で、一九八〇年、私は大学卒業とともにユネスコ青年部も卒業して、神戸の企業へ就職することができました。神戸では、企業で十七年間ロボットの研究開発へ携わった後、十周年工業高専にて教鞭をとり、この四月より広島国際大学工学部機械ロボティクス学科にて教壇に立っています。

技術屋の世界で観念論的な話をするのはなかなか難しいのですが、教育の現場に立つようになって指導する学生には常々「人の痛みがわかる技術者になれ! 君たちが開発設計するのは機械やロボットですが、君たちの設計した機械やロボットの向こう側にはそれを使う人がいる。」と説いています。

浦島太郎のようなもので未だ広島

## 民間の運動に 新ロゴマーク

(社)日本ユネスコ協会連盟では、民間ユネスコ運動の新しいロゴマークを決定し、九月一日のユネスコ運動ユネスコ大会(於：山口)で発表することになっていきます。今後ガイドブックを作成し、これに沿って使用するよう全国の協会に呼びかけています。



# 岐阜県中学校修学旅行生協会の訪問

岐阜市立伊奈波中学校修学旅行の三年生五名(男子二・女子三)の班が五月二十三日広島ユネスコ協会を訪ねてきました。

以下、同中学修学旅行団が広島を訪れ、当協会事務局長の山本が市内を案内し、原爆の問題等を解説しましたので、その一部をご報告いたします。

伊奈波中学校では総合的な学習の時間を「生き方学び方体験学習の時間」と捉え「個性に応じて、将来の進路を選択する能力を養う」ための「プロジェクト学習計画」として設定しています。

三学年プロジェクト学習は「平和学習&進路発見学習」を掲げ、原爆資料館&原爆養護老人施設訪問をし、核の災禍から「再生する力」を学びました。「原爆の子の像」前で六組がテーマを設定し平和宣言(別掲)を朗読、平和を誓いました。その後、一班五名前後の目的別による班別(40余)で突撃取材に市内各所に分かれて訪問しました。訪問団から感想文が届きましたのでその中から一部を紹介いたします。

豊田成司君は「僕は広島の人々の強い平和への願いと核兵器を二度と使ってはいけないという気持ちがよくわかりました。特に僕が心に残ったのは、広島市長さんの平和宣言で、二〇二〇年までに核兵器廃絶を目指すということばです。僕はそれを応援していきたいと思いました。」また、甲斐秋穂さんは「特に、原爆ドームの周りの建物のことです。私は、初めて原爆ドームを見たとき、思っていたより小さく感じました。そしてその理由が分かりました。少し悲しく感じました。たくさんの人にこの問題を考えてほしいと思いました。」

(事務局長・山本隆信)

## 岐阜市伊奈波中平和宣言

(希望)

62年前 ヒロシマ・ナガサキを覆い尽くした絶望の闇をすべてを焼き尽くされた大地の鳴き声  
人々が見出したものから  
パンドラの箱の底に残された小さな希望  
暗い空に輝く月のように  
打ちひしがれた人々の心に  
灯りを灯し  
人々は廃墟から立ち上がった

わたしの街を 返せ  
今 平和とは言えない現実があることを  
僕たちは 見過ごしてはならない  
希望を 希望のまま終わらせな  
いために  
わたしができることは  
何だろう

## ことしもヒロシマ 平和映画祭2007

被爆六十周年の第一回映画祭に続いて(隔年)、第二回は「広島から世界中のhiroshimaへ」のテーマで約五十本の映画・映像作品が、この夏上映されます。(当協会協力)

日程(プログラムの一部)はつぎのとおり。(いずれも八月)

- ◆日本映画の創造力再発見
- 17日(金)「戦ふ兵隊」10:30
- 「激動昭和史沖縄決戦」14:00
- 18日(土)「東京キッド」10:30
- 「サンダカン八番娼館」14:00
- 「絞首刑」18:00
- 19日(日)「黒い雨」10:30
- 「太陽を盗んだ男」14:00
- 24日(金)「風の谷のナウシカ」10:30 14:00 18:00
- (市映像文化ライブラirieで)
- ◆平和を語れ
- 25日(土)「クレイジーだよ妄想天外」10:45

「億万長者」13:00  
「ガイサンシーとその姉妹たち」18:30 ほか  
(西区民文化センターで)  
※いずれもチケットはブレイグイド(デオデオ本店ほか)

## 日誌

- ▲4月▼
  - 13日/ユネスコ活動奨励賞検討会(国際学院立町キャンパス)
  - 15日/現地講座「石見銀山遺跡とその文化的背景」
  - (大森町・出雲市二十三名参加)
  - 19日/西区「原爆ドーム」登録巡回記念展協議(章津公民館)
  - ▲5月▼
    - 3/5日/フラワーフェスティバル・大邱の日イベント
    - 平和大通りブース
    - 4日/大邱訪問団との交流会
    - 会長ほか二名参加(豆匠)
    - 9日/日韓青少年交流会実行委員会 藤井部会長(中国放送)
    - 13日/「原爆ドーム」登録記念展 西区内公民館巡回展開始 7月7日まで
    - 17日/国際交流・協力の日実行委員会 青少年の国際交流、協力活動報告。事務局長(平和文化センター)
    - 21日/役員改選検討委員会 木村委員長ほか(メルパルク)
  - ▲6月▼
    - 6日/岡本太郎「明日の神話」 広島恒久設置・広島誘致委員会、事務局長(平和文化センター)
    - 13日/理事会 予算承認
    - 16日/広島市補助金請書提出
    - 26日/機関紙発行企画会議 (市市民交流プラザ)
    - 29日/全国大会参加手続完了
    - 30日/国際交流・協力の日「展示の部」参加申込締切
    - ▲7月▼
      - 4日/広報部会
      - 7日/第二十四回へあせろべ2007説明会 國田常任理事
      - 8日/「原爆ドーム世界遺産登録十周年」記念展示準備
      - 9日/同記念展 7月22日まで (市市民交流プラザ)
      - 16日/平成20年度広島市補助金提案書提出準備会 亀井・古田部会長ほか事務局関係者 (広島市青少年センター)